

日向市・東臼杵郡歯科医師会

安藤和興、関本信之、鮫島晶、尾池康暢、山下秀和

## 1、事業目的

食を通じて口腔機能の重要性を理解し、口腔保健活動をとおして自己の健康の概念を育て、生涯にわたり自分の歯・健全な口腔組織を維持し豊かな人生を送ることが出来る児童の育成

## 2、対象

日向市立細島小学校 日向市の東、海に面した漁業の盛んな近年過疎、高齢化が進行した地区で、児童の減少の顕著な全児童 125 名の小規模校

## 3、事業内容

### 1、口腔保健事業

低中高学年ごとに担当歯科医師を決めての健診、全員の指導用のスタディモデルの作製・口腔内写真の撮影、それらを利用した指導

健診結果、アンケートを踏まえたむし歯予防の保護者向けパンフレットの作成

高学年の歯肉炎を生活習慣病として捉えた学習支援型授業指導の実施

フッ化物洗口に向けた教職員、保護者向けの説明会、講演会の開催、パンフレットの配布

### 2、食に関する事業

児童、保護者に対するアンケートの実施

縦割り給食の実施、給食時間の延長など学校への提案

噛む効果、食事時の注意点などの保護者向けパンフレットの作成

## 4、考察と展望

地域的な問題もあり DMF、むし歯保有率、未処置歯率、歯肉炎罹患患者数ともに市内の他小学校に比べ高い数値を示しています。

ブラッシングを含めて指導の強化、家庭向けのむし歯予防のパンフレットの作成などを行いましたが、高齢化による地域住民のお年寄りの比率が高く、祖父母との同居も多く、学校だけでなく家庭・地域での歯科保健活動が大きな比重を占めると考えられます。市の地区担当保健師との共同での老人クラブなど地域を巻き込んだ歯科保健活動が重要と考えます。

また学校ではフッ化物応用による予防が効果的と 3 月中のフッ化物洗口の実施に向けて活動を行ってきました教職員・PTA の理解は取り付けましたが、若干の障害もあり実施に至っておらず以後の粘り強い活動が必要と考えられます。

細島小学校でのフッ化物洗口を機会に他の市内の小学校への展開が行えるように努力しています。

食の崩壊が言われ食育による再構築がなされようとしている今、給食の果たす役割は大きなものがあります。歯科として咬合・噛むことの重要性の啓発に止まらず給食の形態、家庭も含めた食事態度・生活態度の問題まで幅広く関わっていく必要を感じ、肥満の問題や生活習慣病を念頭に置いた“よく噛む運動”の推進、嚥下の訓練、正しい食事の取り方など長期にわたる活動を続けなければと考えます。

8020 推進事業委員会名簿(細島小学校モデル事業)

所属	職名	氏名	備考
日向市東臼杵郡医師会	学校医	水野 智秀	みずのメンタルクリニック
	PTA 会長	河野 喜一	
	PTA 副会長	日高 徳子	
細島小学校	校長	戸高 悟	
"	保健主事	平田 政行	
"	養護教諭	瀧本 真佐子	
学校教育課	保健係長	三樹 秀子	
日向市東臼杵郡歯科医師会	学校歯科医	関本 信之	公衆衛生担当理事
"		山下 秀和	副会長
"		鮫島 晶	
"		尾池 康暢	
アドバイザー	九州保健福祉大学言語視聴法学科教授	三浦 宏子	
オブザーバー	日向市臼杵郡医師会	中村 恒雄	日向市食育推進委員会委員長
オブザーバー	日向市臼杵郡歯科医師会	安藤 和興	会長
地区担当保健師	健康管理課	黒木 照代	
事務局長(歯科保健協議会)	日向市健康管理課長	林田 俊則	
	健康管理課課長補佐	壺岐 光子	